



カブトムシ相撲大会

7月23日(日)、町総合体育館において、社会福祉法人愛生会が主催する「第35回カブトムシ相撲大会」が開催されました。

4年ぶりに開催された本大会を楽しみに、県内外から多くの参加者や保護者などが集まり、エントリー数約600名、来場者数約2,000名を記録しました。

開会式では、オープニングセレモニーを愛生会の施設利用者が務め、歌に合わせた手話コーラスを披露し、会場からは大きな拍手が沸きました。

競技は、小学生の部「相撲」「競歩」、未就学児の部「綱渡り」「力くらべ」がおこなわれました。参加者は優勝



めざして自慢のカブトムシで競い合い、大会が進むにつれて会場は熱気に包まれ、一瞬も目が離せない闘いが繰り広げられました。

メインの種目となる「相撲の部」決勝戦は、会場中が注目する中、決着がつくと大歓声が沸き起りました。大丸小学校2年生の假水朔玖^{さく}さんは、父親が自宅の近所で捕獲し一緒に育てたカブトムシと力を合わせて、相撲の部総合優勝を果たしました。

閉会式で、愛生会の新平金道理事長は「来年、またたくさんのカブトムシが産まれるように、今日活躍してくれたカブトムシを森に返してください。たくさんのカブトムシが住めるこのきれいな故郷の自然環境を大事にしてください」と参加者に呼びかけました。

